
帝丹小怪奇事件

MARK

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帝丹小怪奇事件

【Nコード】

N1924B

【作者名】

MARK

【あらすじ】

コナンたち少年探偵団は夜、また学校にいくこととなった。誰もいないはずの教室に人影がいる、ということらしい。学校に入った四人が見たものは？

帝丹小怪奇事件

夏休み・・・。

コナンの元へ元太から電話がかかってきた。

「ええーっ！また小学校で探検をするだって！」

「ああ！今日の五時に校門の前で待ち合わせだ。ちゃんと用意、してこいよ。」

「はいはい・・・。」

と、こうしてコナンは小学校の夜の探検に（強制）参加させられたのだった。

午後五時、コナンは学校にやってきた。

「遅いぞ！」

すでに歩美、元太、光彦の三人は来ている。

「遅いって・・・まだ十分前だぞ。」

校門を乗り越えて中に入りながらコナンはつぶやいた。

「で、何でまた探検なんかするんだ？」

光彦に聞いてみると、

「最近、夜に学校の前を通ると、教室や体育館に電気がついていて、人影がある」ということらしい。

学校に入ったコナンたち。

「あっ！三年の教室に電気がついてる！」

歩美が気づく。

すかさずコナンが走り出す。

階段を上り、三年生のドアを開けるが、中には誰もいない。

ただ、蛍光灯がまだ青白く光っている。人がいたのは確かなようだ。

「誰もいませんね・・・」

「あれゝ。電気がついてたのに・・・」

「なんでだれもないんだ？」

そのときだった。

ガッシャーン！

大きな音。

「いてえ！何だよこれは！」

大声。

それは、校舎の上の階から響いてきたようだ。

「きゃあ！」

「何だ！？今の音！」

「い、今の音、何でしょうか・・・」

三人も戸惑っている。

「行くぞ！」

コナンが先頭になって五年生の教室のほうにかけてゆく。

そして、五年生の教室にたどり着く。

そこには・・・

「これでいいか？」

「ああ。金はここにある。」

「うむ。わかった。」

なにやらこそそと話している男二人。

のぞいていた元太は男の持っていたスーツケースの中にあるものを見て思わず叫んでしまった。

「うわあ！銃だあ！」

そう、中に入っていたのは拳銃だったのだ。

「・・・！」

「なんだ？」

男たちが周りを見回す。

「見つけたぞ！」

とうとう元太たちは見つかってしまった。

「フッフ、見たな。見られたからには子供でも容赦しねえぜ！」

「『子供でも容赦しない』。なんかよく聞くセリフですね。」

光彦がつぶやく。

「ハハハ！死んでもらおうか！」

男二人が拳銃を向ける。

「そうはさせるかよ！」

男がきよろきよろ見回す暇も無く、ボールを当てられぶっ倒れる。

もう一人も、すぐ飛んできたもう一つのボールで倒された。

コナンは元太たちとは別の場所で様子を窺っていたのである。

結局、警察が呼ばれ、二人は逮捕されたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1924b/>

帝丹小怪奇事件

2011年1月26日14時34分発行